



令和2年度

大阪歯科大学大阪府同窓会学術講演会

第1部

歯科診療において対策すべき感染症

—新型コロナウイルス感染症COVID-19との闘いから考える—

全世界にパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスSARS-CoV-2は2019年11月頃に発生が確認され、2020年2月には、ウイルス感染症はCOVID-19と命名されました。抄録を執筆している現在、感染者数は増加の一途で、未だ終息の目処も立っていません。

この新型コロナウイルスの感染経路として、飛沫および接触感染が現時点で報告されています。感染症の特徴として、感染しても無症状であることが多く、症状が出た場合は、咳や発熱といった軽症であることが報告されています。このため、感染しても気づくことなく、感染者はスプレッダー (spreader) となり、クラスター感染に関連する可能性が高まります。一方で、高齢者や糖尿病等の基礎疾患を有する感染者は、重篤な肺炎となり、発症後死亡へ至る確率が高くなっています。このような2面性を有するウイルスであることに加え、今の時点で有効な治療法やワクチンが開発されていないため、感染対策は非常に難航しています。

アメリカの疾病管理予防センター (CDC) は、歯科医療は標準予防策 (スタンダードプレコーション) に加え、空気・飛沫・接触感染経路に対する予防策を徹底するように求めています。今回の講演では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、改めて歯科診療において対策すべき感染症について考えていきます。

この講演が開催される際、全世界で新型コロナウイルスとの闘いが終息に向かっていくことを願ってやみません。



講師

大阪歯科大学細菌学講座 主任教授

沖永 敏則

【略歴】

2002年 九州歯科大学 卒業
2003年 臨床研修歯科医 (九州歯科大学 第1口腔外科講座) 修了
2007年 九州歯科大学大学院歯学研究科博士課程 (感染分子生物学専攻) 修了
2007～2009年 アメリカ オクラホマ大学歯学部 Health Sciences Center
2010年 九州歯科大学 感染分子生物学分野 (旧：口腔細菌学講座) 助教
2015年 九州歯科大学 感染分子生物学分野 講師
2018年 大阪歯科大学 細菌学講座 主任教授 (現在に至る)

第2部

100歳長寿を生きる

—超高齢化社会のアンチエイジング・サイエンス—

超高齢社会を迎えて、私たちの平均寿命は医療や社会福祉にあやかりながらも少しずつではありますが延びて来ています。しかしながら一方で、依然、健康寿命と10年近い解離があることも事実です。豊かな人生を生き抜くための秘訣というものはあるのでしょうか。今般、さまざまな健康療法、サプリメントがあふれている中で、科学的に立証されているものはほんのわずかです。高血圧や糖尿病などの管理は、パンデミックの世を迎える中で、私たちの生命予後にどれほどかわるのでしょうか。今回は認知症をテーマに健康長寿の知恵袋を多面的に紹介して、豊かな人生の送り方を皆さんと一緒に考えたいと思います。



講師

大阪歯科大学内科学 教授

志水 秀郎

【略歴】

1983年 3月 大阪歯科大学卒業
1990年 3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
1999年 3月 大阪大学医学部卒業
2005年 3月 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
2010年 4月 大阪大学医学部・老年腎臓内科：特任助教
2011年 11月 大阪大学医学部・臨床遺伝子治療：特任准教授
2018年 11月 大阪歯科大学・内科学：教授

日時

令和2年8月1日(土)

14:00～16:00 受付13:30から

定員

150名

講習費

無料

会場

大阪歯科大学創立100周年記念館

対象者

会員(会費納入者)及び会員診療所スタッフ

申込み〆切/7月22日(水)

■お申込方法については裏面をご覧ください。



「感謝 そして 新時代への挑戦」

2020年10月24日(土)

大阪歯科大学同窓会
設立100周年記念大会

大阪歯科大学大阪府同窓会